

日本民家園だより

特集 芸能公演

vol.91



日本民家園では、年に2回、9月と11月に民俗芸能公演を開催しています。

今回は、地域社会に根付き、時代とともに変化してきた芝居という娯楽についてご紹介します。

農村舞台

農山漁村にある近世芸能の舞台で営業用でないものを「農村舞台」と呼びます。

江戸時代の農村では、地元の素人がみずから歌舞伎や人形芝居を演じて楽しんだものを「地芝居」、村に巡業してくる玄人の歌舞伎や人形芝居を請けて見物して楽しむことを「請芝居（買芝居）」といました。



農村舞台(旧船越の舞台)

地芝居と請芝居(買芝居)

土地の人々が演じる地芝居は、ほとんど村人達の手で伝承され、舞台は共有の財産として大事に維持されてきました。従って、都会の芝居小屋のように規模が大きく設備が充実しているものは少なく、芝居ができる程度の大きさで、楽屋は舞台の背面や側面に設けられました。村民全員が集まることができるよう、神社の境内が使われることもありました。

また、地芝居は単なる娯楽ではなく、村の生活と密着した民俗行事の中に位置づけられていました。虫送りや雨乞い、厄病除け、祖先の供養など、祭礼その他の行事に結びつけて、祈願や奉納の名目で行われることが少なくありませんでした。

船越の舞台も当初は地芝居だったものが、明治20(1887)年頃から請芝居へと移行していききました。

暮らしの中の娯楽

日本民家園に移築された民家の中にも、芝居を楽しんでいたという話がいくつか残っています。

佐々木家が所在した長野県南佐久郡佐久穂町畑では、祭りのときは河原や田んぼで芝居をやりました。上演するのはほとんど秋の刈り入れ後の夜の時間で、10日も20日も続きました。本職の芸人を呼ぶようになったのは劇場ができてからで、それまでは村の人が演目や配役を決めて練習し、役も演じました。衣装などは家から持ち寄りました。芝居が始まると村の人は弁当を持って行って楽しんだそうです。

鈴木家が所在した福島県福島市松川町では、神社の秋祭りに舞台を作り、まわってきた旅役者が芝居をしました。

山田家が所在した富山県南砺市桂では、田舎芝居の旅芸人が何年かに1度まわってきていました。芝居小屋を設けたわけではなく、こうしたときは集落の民家の座敷で間仕切りを全て外し、大広間にして上演しました。



屋内での公演の様子(旧工藤家住宅)

地芝居の変化

地芝居は戦争のために多くが中断しました。戦後に復活したものもありましたが、社会の変化やテレビの普及など娯楽の多様化に伴い、高度経済成長期には急速に衰退しました。

しかし、1970年代半ばになると、地芝居の伝統のあったところで相次いで復興し、保存会が結成されるなど伝承のため後継者育成に力を入れる動きが強まってきました。

【人形浄瑠璃公演】



相模人形芝居下中座提供

令和元年度公演予定

令和元（2019）年 9月23日（月祝）

時間：① 12時半～14時／② 14時半～16時

1回目は英語ボランティアガイドによる解説、
2回目は実際の人形を使った子ども向け体験
を予定しています。

料金：一般 1000 円、学生・子ども 500 円

会場：旧工藤家住宅（重要文化財）

団体：相模人形芝居下中座

演目：「伽羅先代萩 政岡忠義の段」

【相模人形芝居下中座】

*団体概要

下中座は、神奈川県小田原市小竹地区に伝わる相模人形芝居を伝承する芸能団体です。

高度経済成長期の急激な社会変化によって担い手である若者の人形離れをよびましたが、座の存続に危機感を抱いた小田原市などの協力を得て、平成 3（1991）年より後継者育成事業が実施されました。

*文化財指定

昭和 55（1980）年に国指定重要無形民俗文化財に指定されています。

*現在の活動

近年、地域密着と後継者育成に力を入れ、神奈川県立二宮高校の相模人形部、小田原市立橋中学校の相模人形クラブの指導にあたっており、座員に若者が増えてきています。

【農村歌舞伎公演】



秋川歌舞伎あきる野座提供

令和元年度公演予定

令和元（2019）年 11月3日（日祝）

時間：13時半～14時半

英語ボランティアガイドによる解説を予定しています。

料金：一般 1000 円、学生・子ども 500 円

会場：旧船越の舞台（重要有形民俗文化財）

団体：秋川歌舞伎あきる野座

演目：「仮名手本忠臣蔵 七段目祇園一力茶屋の場」

【秋川歌舞伎あきる野座】

*団体概要

あきる野座は、東京都あきる野市二宮に伝わる二宮歌舞伎の流れをくむ芸能団体です。

二宮歌舞伎は昭和 38（1963）年を最後に上演が途絶えましたが、その後の平成 4（1992）年に二宮歌舞伎の伝承と青少年の健全な育成を目的に、当初は子供歌舞伎として秋川歌舞伎保存会が発足しました。

*文化財指定

平成 12（2000）年に東京都指定無形民俗文化財に指定されています。

*現在の活動

現在は老若男女合わせて約 90 名の座員が大道具や衣装などを自前製作し、地元を中心に公演活動を行っています。

過去の公演の様子



平成29(2017)年「しょううつしあきがおほし やどや おおいがわ生写朝顔話 宿屋～大井川」

平成30(2018)年「かなてほんちゆうしんぐら おしかがやかたもんせんしんもつ まつ まにんじょう仮名手本忠臣蔵 三段目足利館門前進物の場 足利館松の間刃傷の場」

- 参考文献：角田一郎『農村舞台探訪（近松研究所叢書）』和泉書院、1994年
 民俗学事典編集委員会『民俗学事典』丸善出版、2014年
 川崎市立日本民家園『日本民家園収蔵品目録1 旧船越の舞台』、2003年
 川崎市立日本民家園『日本民家園収蔵品目録9 旧佐々木家住宅』、2008年
 川崎市立日本民家園『日本民家園収蔵品目録13 旧鈴木家住宅』、2010年
 川崎市立日本民家園『日本民家園収蔵品目録20 旧山田家住宅』、2015年

日本民家園だより vol.91 発行：令和元(2019)年9月1日

川崎市立日本民家園 URL <http://www.nihonminkaen.jp/>

〒214-0032 川崎市多摩区栢形7-1-1 TEL 044 (922) 2181 FAX 044 (934) 8652

交通 小田急線「向ヶ丘遊園」駅下車南口より徒歩13分

開園時間 [3～10月] 9時30分～17時 [11月～2月] 9時30分～16時30分（入園は閉園30分前まで）

休園日 毎週月曜（祝日の場合は開園）、祝日の翌日（土・日曜の場合は開園）、12月29日～1月3日

10月16日[休]は臨時休園（10月15日[火]は臨時開園）10月23日[休]は祝日の翌日のため休園

入園料 一般500円、高校・大学生300円、65歳以上300円（川崎市在住の方無料、要証明書）、中学生以下無料